

## 協議事項1

# 補助金の見直しについて

(各WGの補助金見直し・検討作業表)



補助金見直し・検討作業表

(作成日: 年 月 日)

事業番号	12	補助金(事業)名称	自主防災組織資機材等整備費補助金	記入者	第1WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	いつ起きても不思議ではない東海地震に備えて資機材を備える必要性と、住民の防災に対する意識を高めるという点の両方において本事業の重要性は高いと言える。	
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	自主防災組織の自主性に任されているが、適切な資機材の整備を促進する観点から、市の関与が望ましい。	
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	補助金を採用していることは基本的に妥当であるが、どの自治区にも必要な資機材については、市が一括購入し配備する方が確実でかつ費用も安い可能性がある。	
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)	災害に備えて自主防災組織が資機材を整備することは必要であり、適切な資機材が選定され、その整備が進展することを保障する上で、市が補助金を交付することは望ましい。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	自主防災組織を補助対象者としていることは妥当である。	
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	防災資機材の購入のほか保管場所の整備費も対象となっており、目的に照らして適切な活動が補助対象となっている。	
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	現行の支給条件・支給方法が著しく妥当性を欠くとは言えない。しかし、自主防災会の申請がほぼ通る制度となっており、必要な資機材を必要だけ購入するような仕組みになっているかどうかは検証が必要である。また、前述(A-3)のとおり、一部の共通資機材については、市の一括購入による配備の可能性もある(自主防災組織の共同購入といった方法も可能であろう)。	
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない	B-3に指摘したように、現行制度が必要な資機材を必要だけ購入するような仕組みになっているかどうか不明である(どちらかと言えば、不必要なものも含めて過剰に購入することにつながっている可能性が高い)。	
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)	補助対象者・活動は適切であるが、制度設計は必ずしも適切とは言えない。特に、不必要な資機材を購入したり、必要以上の分量を購入することを誘発する制度になっているのではないかの懸念がある。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	ほとんどの自主防災会が本補助金を利用して資機材を整備しており、事業は概ね順調に進捗していると判断できる。
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない	防災資機材の整備が進展しているという意味では一定の有効性は認められる。しかし、必要な資機材が必要量整備されているかどうかについては判断材料が存在しない。このため本事業の有効性については判断を保留した。
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	自主防災会の保有資機材リストは作成されているようだが、必要性の高い資機材が整備されているかどうかや資機材の耐久年数については市のチェックが及んでいない。なお、本事業の有効性を高めるためには、自主防災会を対象とする講習やリーダー育成が必要であり、これらの取り組みを拡充していくことが望ましい。
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	市民の安全に関わるだけでなく、適切な整備を行っておくことが、非常時における市全体としてのコストを低くすることにつながるため、自主防災会の自主性だけに期待するのではなく、市も積極的な対応を行うことが望ましい。
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	現在は、自主防災会の自主性に任せて本補助金が運用されているため、自主防災会が必要性の高い資機材を整備しているかという点で懸念がある。市側も自主防災会の保有する資機材の内容を詳細にチェックしていない。市民の安全に関わるのはもちろんのこと、非常時には、適切な資機材の整備が市全体のコストを低くすることにつながるため、市が各自主防災会の状況をチェックするとともに、必要に応じて助言等を与える必要がある。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	自主防災会が防災資機材を整備する必要性は高く、これに対して市が関与することも望ましい。ただし、本補助金は、各自主防災会が必要な資機材を必要量だけ購入することを保障する仕組みとなっておらず、有効性の点で疑問がある。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	自主防災会が必要性の高い資機材を必要量だけ整備することを優先するような運用に改めることが望ましい。そのためには、優先度の高い品目に絞って補助金を支給するような制度に改めることが望ましい。また市は各自主防災会の保有資機材の品目や耐久年数について詳細に情報を把握しておくことも必要である。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	本補助金は今後も継続が必要である。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	H22年度については、予算要求どおりの内容でやむを得ない。H23年度以降については、本補助金の運用方法を見直す必要がある。その結果によっては、事業費が大きく変わる可能性がある(これまで必要性の低資機材が整備されていた可能性があることから、事業費が縮小することが予想される)。
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) H22年度は現行どおりとするが、H23年度以降は、原則として必要性の高い資機材を中心に補助金を支給するよう運用を改めることが望ましい。その実施にあたっては、227か所における資機材の保有状況を早急に確認し、これに基づき必要資機材リストを作成するなど、新しい運用基準の作成が必要である。また市が各自主防災会の資機材保有状況を従来より詳細に把握するように改めることも必要である。

補助金見直し・検討作業表

(作成日: 年 月 日)

事業番号	15	補助金(事業)名称	地区組織活動事業費補助金	記入者	第1WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「口」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 重要性は高い <input checked="" type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	地区を対象として、地域住民のための社会教育・生涯学習活動の拠点(地域生涯学習センター)の提供と活動の支援を行うことが本事業の趣旨である。地区単位で住民の活動が活発化することは、コミュニティの強化を通じて住民参加によるまちづくりの推進や住民自治の実現につながる可能性がある。その意味で、本事業の目的は重要性が高いと言える。ただし、本事業が40年近く継続していることからみて、緊急性の高い目的を持つ事業とは言えない。	
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	歴史的経緯(市の政策として地域障害学習センターの設置を推進してきたこと)や事業の有効性の観点からみて、市が本事業に関与することは望ましいと言える。また、事業の開始当初からセンターの運営を市の直営ではなく地区に委託し、住民の主体的な関与を進めてきた点も評価できる。しかし、市の関与が不可欠とまでは言えず、むしろ市の関与が既成事実化することにより、センターの活動が補助金頼みになっているのではないかと懸念もある。	
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	現行の制度の下では、市が関与するとすれば、補助金を採用することは妥当である。ただし、本WGでは、そもそも「市-地区-区」という3層構造を前提としているという事業の基本的前提に対して疑問が投げ掛けられた。そもそも大東・大須賀においては地区という単位もセンターも存在しなかったため、センターの必要性に対する認識が高いとは言えない。また地区の規模がまちまちであるにもかかわらず地区単位でセンターを設置しているため、事業が非効率になっている可能性がある。	
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)	地区を単位として、地域住民に対して社会教育・生涯学習学習の場と機会を提供することを目的とする事業であり、コミュニティ強化や住民自治推進の観点から重要性の高い事業である。歴史的経緯などからみて、市が関与すること、補助金制度を採用していることには一定の妥当性が認められる。ただし、本事業が最善の手段を採用しているとは言い切れない。特に、「市-地区-区」の3層構造を前提として本事業が制度設計されている点については、疑問の余地なしとしない。そもそも地区が存在しなかった大東・大須賀においては、センターの必要性が十分に認識されているとは言えない。また、規模の大小にかかわらず地区ごとに施設や役員を配置しているため、非効率になっている面がある。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	地域生涯学習センターを運営する地区活動組織を補助対象としていることは概ね妥当である。	
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	センターの維持管理費、地区活動組織の組織運営費、センターにおける活動費が補助対象となっていることは概ね適切である。ただし、「施設の管理運営費ではなくセンターの活動費を補助している」という市の説明にもかかわらず、規模の大小や活動の実態によらず補助金が一律に配分されており、市の説明と矛盾している。	
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	地区の規模や活動状況によらず各地区に対して140万円が均等に交付されている点は補助金の目的や市の説明(「施設の管理運営費ではなくセンターの活動費を補助している」)に照らして適切とは言えない。なお、Aで指摘したように、そもそも地区を単位としてセンターを設置し、これに補助金を交付することは効率性等の観点で問題があり、再検討の余地がある。	
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	平成22年度予算要求額(4,130万円)の算出根拠は明確であり、額が不当に大きいとは言えない。しかし、大きな繰越金を計上するセンターが存在することから、均等割の交付額の水準が適切であるかどうかは検討の余地がある。	
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)	「施設の管理運営費ではなくセンターの活動費を補助している」という市の説明と、各センターに均等割で補助金を交付している制度設計の間に矛盾が存在する。地区の規模やセンターの活動状況にかかわらずほぼ一律の補助金が交付されているため、一部のセンターでは補助金が非効率に使用されている可能性がある(補助金を使い切るために行事を計画するなど)。また一概に問題であるとまでは言えないが、大きな繰越金を計上するセンターが存在することは、補助金の交付額の妥当性に疑問を投げ掛ける要素であり、交付額の水準についても再検討の余地がある。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	旧掛川市を中心とする地域では、地区単位でセンターが整備され、これを拠点として住民の活動が進められてきた。一方、新たに掛川市に加わった南部(旧大東町・旧大須賀町)では、もともと地区が存在しなかつたため、センター設置の途上であり、センター設置の理解を得られていない地区も存在する。
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない	各センターにおいては、年にさまざまな行事・活動が計画・実施されており、その様子はウェブサイトにも掲載されている。ただし、各センターが活発に活動を行っているのか、また幅広い層がセンターの活動に参加しているのかといった点については確認が得られなかった。「毎年、変化のない行事が計画され、事業計画がマンネリ化している」「役員候補の選出に苦労している」等の声も聞かれることから、各センターの活動内容の実態を把握する必要がある。
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	市は定期的に開催されるセンター長・事務長会議において各センターの状況を把握しているほか、各センターの収支状況も報告させている。しかし、基本的には各地区にセンターの運営を任せっきりであり、補助金の使用状況やセンターの収支状況のチェックが行われているとは言えない。
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	各センターの活動内容を十分に把握していないにもかかわらず「活動内容の充実を図る[...]」ための管理運営費がますます必要となる」と記述しており、担当者が本事業の問題を十分に把握しているとは言えない。
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	旧掛川市では、各地区にセンターが設置され、これを拠点として長年住民の活動が行われてきた点は評価に値する。ただし、各センターの活動の実態が十分に把握されているとは言えず、行事等への参加者が一部の住民に偏っていたり、センター主催の行事がマンネリ化したりしているとの懸念がある。また、市は基本的に各地区にセンターの運営をまかせっきりであり、補助金の使用状況やセンターの収支状況のチェックが行われているとは言えない。このような状況下で事業費の増大を要求することは根拠が薄い。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	現状の制度を前提とすれば、補助金の意義や必要性は高いと言える。また、長年の運用により、各地区にセンターが設置され、これを拠点として住民の活動が実施されている点も評価すべきである。ただし、センターによっては、活動への参加者が一部の住民に偏っているのではないかと、また毎年の活動内容が予算消化のために計画されておりマンネリ化しているのではないかとこの疑念を拭い去ることができなかった。市もセンターの運営をまかせっきりであり、補助金の使用状況やセンターの活動状況を十分に把握しているとは言えない。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	「市一地区一区」の3層構造を前提とした現在の補助金制度は効率性等の点で問題があり、抜本的な再検討の必要性が認められる。現行制度を前提とする場合には、各センターに均等割で補助金を交付する根拠が希薄であり、見直しの必要がある。また、市は各センターの運営・活動状況の実態を把握する必要がある。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input checked="" type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	長期的には、本補助金が前提とする「市一地区一区」の3層構造の是非と、本補助金のあり方について抜本的な見直しが必要である。抜本的な見直しに至る数年(概ね5年程度)は、ほぼ現行のまま本補助金を運用することもやむを得ない。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	各センターに補助金を均等割で交付している点と交付額の水準については再検討の必要がある。適切な配分方法と交付額を見直しの上、全体としては事業費を僅かに縮小(10%程度が目安)することを求める。
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) 本補助金については、以下のスケジュールの下、制度の見直しを求める。 短期(H22年度に向けて):均等割配分の見直しと事業費の削減(10%程度) 中期(概ね3年間程度):地域生涯学習センターの統廃合(必要であれば地区の再編成も並行) 長期(概ね5年間程度):3層構造の抜本的見直しと、これに伴うセンターの再編(結果として本補助金も制度変更が必要)

補助金見直し・検討作業表

(作成日: 年 月 日)

事業番号	20	補助金(事業)名称	行政事務取扱交付金	記入者	第1WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「口」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 重要性は高い <input checked="" type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	市と自治区の連携強化につながる制度であり、重要性は概ね高いと言える。また地域生涯学習センター、自主防災組織、コミュニティ施設運営との関連性も高い。	
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	現状では、市の役割を自治区に代行させているとの位置づけであることから、市が関与することには一定の妥当性が認められる。ただし、交付対象の事務はいずれも各区にとって必要であり、市の関与がないとしても、各区で独自に実施すべきものである。	
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	自治区の実施する事務が多岐にわたり、しかも各事務が相互に関連しているため、補助金ではなく使途が原則自由な交付金を採用していることは妥当である。	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	市の業務を各自治区に代行してもらい対価として支給されている交付金であり、市と自治区の連携強化の観点から重要性の高い事業である。また補助金ではなく交付金を採用していることも妥当である。ただし、交付対象の事務は、各自治区自身にとっても重要なものであり、行政の関与がなくても自主的に対応すべきとの考え方も可能である。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	市内全域で自治区が組織されており、コミュニティとして最も基本的な単位でもあることから、自治区を補助対象者とすることは概ね妥当である。ただし、自治会への世帯加入率が漸減傾向にある点は留意が必要である(加入率が大きく減少した場合には、自治区を補助対象とすることの妥当性を再検討する必要がある)。	
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	概ね適切であるが、「回覧や文書の回付等」を中心とする事務に交付金を支給することや、市と自治区の役割分担については再検討の余地がある(補助対象事務は、本来各自治区が独自に実施すべきとの考え方もありうる)。	
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	概ね適切である。	
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	他市と同様の制度であり、掛川市の事業費が大きく妥当性を欠いているとは言えない。ただし、1世帯当たり1,700円という算定根拠は恣意的であり、その金額の妥当性については精査が必要である。また事業費が妥当である根拠として、広報を新聞折り込みにした場合の試算額が示されたが、その算出額は妥当とは言いがたい(業者の言い値による試算であり、交渉や条件設定により縮減できる可能性が高い)。なお、本事業には含まれないが、自治区に対する活動助成金が一律3万円である点についても妥当性の検討が必要である。	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	制度設計が大きく妥当性を欠くとは言えない。ただし、現状では「回覧や文書の回付等」に対する手間賃として本交付金が支給されている面が強く、本事業の副次的効果(自治区の交流・活動の強化)をどの程度重視するかによって、本事業の評価は異なってくる。事業費については、1世帯当たり1,700円という算定根拠は恣意的であり、その妥当性については精査が必要である。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	制度に基づき交付金が着実に支給され、自治区において利用されている。
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない	各自治区における交付金の利用状況や活動状況は不明であり、有効性を判断する根拠が乏しい。
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	法人格のある自治区のみ決算を把握しているというが、同様の交付金を支給している以上、法人格の有無にかかわらず同様の情報を把握すべきである。
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	担当課における問題意識は希薄であり、本事業の有効性や効率性を高めるための取り組みがなされているとは言えない。
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	交付金の利用状況や自治区の活動状況が把握されていないため、本事業の有効性を判断することは難しい。34年間にわたって本事業が継続する中で、市の本事業に対する見方が硬化化しており、問題点の把握や改善に向けた努力を行う意識が希薄になっている。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	コミュニティの機能強化や市と自治区の関係強化の観点から、本事業の意義は高いと言える。ただし、長年の運用の中で本事業が硬化化しているのも事実であり、対象活動や事業費の算定根拠(1世帯当たり1,700円)などは見直しの余地がある。また、法人格の有無にかかわらず、全自治区について同様の決算情報の提出を求めるべきである。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	広報を新聞折り込みにするよりも安上がりだから交付金で賄っているという説明が市によってなされたが、文書等の回覧のために住民が負担する費用が無視されている。本交付金が正当化されるのは、民間に委託する場合よりも安上がりだからではなく、コミュニティ機能の強化など副次的な機能が期待されるからである。担当者はこの点を十分に理解して欲しい。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	本交付金を今後も継続することに関しては大きな問題はない。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	1世帯当たり1,700円としている点については検証が必要である。その結果によっては、事業費が縮小される可能性がある(現状の財政状況を踏まえると、本交付金の事業費を拡大できる可能性は極めて低い)。
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) 一世帯1,700円という算定根拠の妥当性は検証が必要。また、交付金を受給する全自治区から同様の決算報告を受けるべき。また新聞折り込み等別手段を併用することにより、トータルの費用を削減できる可能性がないか検討して欲しい。

補助金見直し・検討作業表

(作成日: 年 月 日)

事業番号	23	補助金(事業)名称	コミュニティ施設整備事業補助金	記入者	第1WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 重要性は高い <input checked="" type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	概ね自治区を単位としてコミュニティ施設の整備費を補助することが目的であるが、施設の整備は一巡している。むしろ近年は、老朽化して耐震性の欠ける施設の建替えに重点が移行している。	
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	各自治区の活動拠点となっているコミュニティ施設の耐震化を進める観点から、市の関与は望ましい(市が関与しない場合には、耐震化がさらに遅れる可能性あり)。	
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	安全なコミュニティ施設の整備を促進する観点から、補助金を採用することは妥当である。	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	地域の基本的な活動単位である自治区の活動拠点を整備するための補助金であるが、近年は老朽化して耐震性の欠ける施設の建替えに重点が移行している。住民が安全なコミュニティ施設で活動することができるために本補助金の存在は有意義である。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	地域の基礎的な単位である自治区、小区が対象となっており、概ね妥当である。	
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	コミュニティ施設の新設及び改築(全面建替え)を対象としており、適切な対象が設定されている。ただし、施設整備がほぼ一巡していることから、対象を耐震化やユニバーサル・デザイン化のための建替えに限定し、新設は原則として対象としないことにはどうか。	
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	県の補助金制度と連動しており、制度設計面の自由度はあまりない。	
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	自治区からの申請に基づき事業費が計上されており、概ね妥当であると言える。	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	補助対象者、補助対象活動ともに明確であり、概ね妥当だと言える。また県の補助金制度と連動しているため、市としての制度設計面の自由度はあまりなく、その範囲においては適切な制度が設定されている。ただし、コミュニティ施設の整備が一巡していることから、既存施設の耐震化ユニバーサル・デザイン化に絞った制度とすることも検討すべきである。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	老朽化した施設が100棟以上残っており、耐震化の観点では事業が順調に進展しているとは言えない。ただし、自治区の財源の問題があるため、事業の進捗が不十分であるのは全てが行政の責任とまでは言い切れない。
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input checked="" type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	限られた予算の中では、年間の整備数には制約があり、対象となる施設の整備はなかなか進まない。
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	未整備施設については自治区からの申請を待つのが市の基本的姿勢であり、市からの積極的な周知や呼び掛けは行われていない。
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	100棟の老朽化施設を解消する方策は検討されていない。
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	昭和56年以前に建築された100棟は耐震性に欠けているが、限られた予算と自治区の財源の問題により、これらの施設の改築は進んでいない。現状のままでは事態を大きく変えることは困難であり、この問題を解決するためには、抜本的な対策が必要である(例えば、老朽化した施設の全てを建替えるのではなく、既存施設の利用も視野に入れるべきであろう)。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	コミュニティ施設の整備が一巡していることから、近年は耐震化の観点から本事業の重要性が高まっている。ただし、予算面の制約により、毎年の整備数は数件に留まっており、本事業の有効性が高いとは言えない。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	コミュニティ施設は災害時には避難場所となる可能性もあることから、耐震性の確保は重要な課題である。現行制度によって100棟の施設を建替えることは不可能であることから、既存施設の利用など、抜本的な解決策を検討する必要がある。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input checked="" type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	現状のままでは老朽化施設の建替えは困難であることから、一定期間内に老朽化施設の解消ができるよう新たな対策を立て、計画的に実施していく必要がある。ただしH22年度については、現行制度を運用する。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	H22年度については予算要求どおりを計上する。それ以後については、新たな対策を検討・実施するため、事業費が大きく変わる可能性がある。
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) 老朽化し耐震性に欠ける施設を放置することは、市民の安全性の観点から看過することができない。よって以下の抜本的な対策を検討して欲しい。 ① 老朽化物件の耐震診断を実施する(市の負担で) ② 耐震診断結果をもとに、建替え物件、継続利用物件、他の施設への移転等の区分を行う ③ 区分ごとの対応を計画的に実施する ※ 上記に伴い本補助金の制度改訂も必要

補助金見直し・検討作業表

(作成日: 年 月 日)

事業番号	147	補助金(事業)名称	木造住宅耐震補強事業費補助金	記入者	第1WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「口」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	個人の資産(住宅)に交付する補助金であるが、災害時の被害をできるだけ小さくするためにも必要かつ重要な事業である。	
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	上記と同様の理由により市の関与は不可欠である。	
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	県の制度と連動しているため補助金を採用していることは妥当であり、他の有効な手段は見当たらない。	
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)	昭和56年以前に建築された木造住宅が多数(6~7千戸程度?)残っているため、東海地震に備えて耐震性の欠ける木造住宅の耐震化を進めることは重要な社会的課題である。本事業は、県の制度と連動して木造住宅の耐震補強工事費を補助するものであり、地震災害時の市民の生命や財産を守る上で重要性は極めて高い。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	問題なし。	
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	問題なし。	
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	県の制度と連動しており、現行の対象事業の要件は概ね適切であると認められる。ただし、現行制度では、市内に多数残る対象住宅の耐震化を大きく進展させることは不可能であり、それを求めるのであれば異なる制度設計が必要となる。	
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	別の補助金を利用して補強計画を策定した住宅が主に本事業の対象となっており、本事業は計画的に実施されている。	
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)	同様の事業は全国的に実施されており、掛川市では県の制度と連動して本補助金が運用されている。補助金の対象者・対象活動・制度設計等は妥当であり、大きな問題はない。ただし、制度の前提として、多数の木造住宅の耐震化を一気に進めることをめざしたものでないことは明らかであり、木造住宅の耐震化を大きく進展させようとするれば、制度設計の大きな変更が必要である。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	毎年の補助件数は100件未満、過去5年間の耐震化改善率も23.4%に留まっており、本事業が順調に進捗しているとは言えない。
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input checked="" type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	耐震化の必要な木造住宅が6~7千戸残っていると予想されるが、本事業は住宅所有者の希望に依存した実施となっており、有効性の高い運用がなされているとは言えない。危険箇所の住宅を重点的に対象としたり、災害時に深刻な被害が予想される高齢者の住宅を優先したりするなど、メリハリのある運用も必要であろう。
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	補助金を申請した対象者に対する措置は適切に実施されているものと推察されるが、潜在的な対象者(特に老朽化した木造住宅の所有者)に対しては十分な対応が取られているとは言えない。なお、耐震偽装のチェックに関しては、県からの指導の下、計画的に対応していくとのこと。
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	住宅所有者からの申請待ちであり、本事業の問題点・課題を把握したり、本事業の有効性を高めるために創意工夫したりしようとする意識が希薄である。例えば、工事費が少額で、大半の費用を補助金で賄っている事例が極めて多いが、その実態を把握することにより、本事業の改善のためのヒントが得られる可能性がある。
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	震災時に市民の生命・財産を守る点に本事業の重要性があるが、現実にはそのような意図で本事業が運用されておらず、本補助金が有効性を発揮しているとは言えない。危険区域を定めてその地域の木造住宅を重点的に対象としたり、災害時にはもっとも弱い立場に置かれる高齢者の住宅を優遇したりするなど、より効果的な運用に向けた工夫が必要である。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	老朽木造住宅の耐震化は、震災時に市民の生命・財産を守ることに資するものであり、これに対応する本事業の重要性は極めて高い。しかし、多数存在する老朽木造住宅の耐震化を大きく進めるような制度設計や運用がなされておらず、本事業の有効性は小さいものに留まっている。市民の生命・財産を守るといふ本来の目的を重視するならば、本事業を現状のまま続けるのではなく、有効性を高めるための創意工夫が必要である。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	本事業の有効性を高めるためには、補助対象に何らかの重点化が必要である。そのため、危険区域を定めてその地域の木造住宅を重点的に対象としたり、災害時にはもっとも弱い立場に置かれる高齢者の住宅を優遇したりするなど、より効果的な運用に向けた工夫が必要である。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	補助金の重要性には疑いの余地がなく、今後も継続することが必要である。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	高齢者のみ世帯の耐震化を促進するために、市の補助率を拡充することを提案する(例えば、上限額70万円→90万円)。補助率の設定は、利用実態や県の制度との整合性を勘案して決定する。高齢者のみ世帯以外については、重点化を図るのみであり、事業費の総額は従来と大きく変えない。したがって、高齢者向けの補助率が拡充する分だけ事業費が拡大することになる。なお、この措置はH22年度予算に反映させることが望ましいが、それが困難な場合には、H23年度予算より反映させる。
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) 上記対応を実施する際には、対象世帯への周知徹底が必要である。なお、最新の住宅統計が得られた段階で、本事業の実施方針を改めて検討すべきである。

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月28日)

事業番号	29	補助金(事業)名称	掛川市社会福祉協議会補助金	記入者	第2WG
1. 主要観点別の検討項目					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 重要性は高い <input checked="" type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	重要	
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	社会福祉の理念に疑をはさむ余地はない。しかしながら民間の福祉事業者が増えた分、多額の補助金を投入する必要があるのか、人員等を含む市の財政を考慮すると抜本的な対策が必要な時期に来ていると考えられる。 自分の足で立ち、市に配当をする位の経営感覚が福祉事業にも求められているのではなかろうか？2億の受託金に対し3億の人件費でマイナス分を補助金で補うシステムに、もう掛川市は耐えられないのではないのか？			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	市からの委託事業が余りにも多岐に渡り、スタッフ、資金の投入が効率良く出来ない為、そのしわ寄せがスタッフの給料、質に出てきており、優秀な人が定着しない(市側担当者の弁)という悪循環に陥っている。故に、補助金を効率良くコストパフォーマンスを上げる為に、事業の絞り込み、人員の削減等々従来と全く違う視点で発想し、掛川市の第二市役所である(市側担当者談)という考えを捨てて頂き、市の部長曰く「自立していく組織」に早急になってもらうことが喫緊の事である。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input checked="" type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)			

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	福祉事業(委託金)2億、人件費3億という構図を変えない限り、未来永劫に渡り補助金が続くことになる。これに市は耐えられるのか？余裕があるのか？否ではないのか。さすれば、事業の内容を精査し、人、物、金の投入の適正化を図り、社協の組織が自立していく工程表を早急に作成し、自立を促すことしか生き残る道はない。 ◎学童事業は、民間及び乳幼児保育事業とダブらないのか。委託事業の本格的な見直し。 ◎スタッフ、体制 正規職員31名、嘱託19名以上50名の補助金対象者、人件費の人数の削減を図ること。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する)

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月20日)

事業番号	30	補助金(事業)名称	掛川市民生委員児童委員協議会補助金	記入者	第2WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	社協とタイアップして効率良くやること。	
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	補助金の採用は妥当だが、189人の活動実態を調査し、活動の乏しい人の額を1/2程度に減らすこと。	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)				
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)		市補助金58,500円(一人当たり)、県補助金72,000円(一人当たり)、合計一人当たり13万円の活動費補助金を多いとみるか、少ないとみるかであるが、年間130日の活動、民生委員の広範囲な仕事内容からすると制度としては概ね妥当である。		

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input checked="" type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)			

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	◎活動状況の実態調査をして、活動歴のない人の補助金カット(1/2)をする。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	民生委員の欠員補充は、市の職員でまかなう(退職者の)
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) セーフティネットの最低限の活動、地域の福祉サービス及びコミュニケーションを図るためにも制度は必要であると考え。ボランティアの要素が多いため、なり手がいない地区もあり、活発に動員人を募るためにも、活動費の補助金増額を考えるべきと思う。

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月20日)

事業番号	46	補助金(事業)名称	掛川市シルバー人材センター事業費補助金	記入者	第2WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	世界同時不況で若者の就職難の今日、シルバー人材に税金投入の必要性があるのか？若者を救済しなくて良いのか？	
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	事務員スタッフの多さを考えると市の関与を極力減らし自立を促すこと。	
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input checked="" type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	上記の事由により補助金の大幅カット。	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	シルバー人材センターの目的に異議はない、良い理念であると思うが、2009年の今、もう一度原点に立ち帰って考えてみなければいけない。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	県費320万を含む2,125万円は、決して高くはないが、シルバー人材事業は、多種多様な人材があるので、やり方によっては、事業を拡大し、(民間的発想)合理化し、経費を切り詰めれば補助金は必要なしと考える。十分自立ができる事業である。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input checked="" type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	平成18～20年の3年間で会員数、受案件数、就業人員、契約額とも景気低迷の影響を受け減少している。この状況に対する危機感が欠如しており、会員数、受案件数を上げる努力がなされているのか？疑問である。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	補助金の運用は、短時間の説明だけでは検証できない。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input checked="" type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) そもそも4億1,332万円の受託事業に事務スタッフが13名と民間では全く考えられない人員がいる。シルバー人材センター事業は必要だが、掛川、大東、大須賀と3ヶ所に分散している事務所の統合など、合理化に取り組み、自立への道を歩むことを望む。

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月24日)

事業番号	142	補助金(事業)名称	駅前東街区市街地再開発事業費補助金	記入者	第2WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	この事業のコンセプトである中心市街地活性化には賛同できる。しかしながら、活性化「イコール箱物」なのか？公開ヒアリングだけでは説明不足。	
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	平成15年の市議会特別委員会で上限2億6千万という提言を出したのに現計画では、4億5千万に変わっている。現下のデフレ不況の中、多額の補助金を投入して本当に上手くいくのか？	
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input checked="" type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	国、県だけではダメなのか？	
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)	補助金の額が平成15年当時2億6千万(事業規模70億)より現在、事業規模が48億と縮小したにも関わらず、倍近い4億5千万に増加している。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	市中心部活性化対策としてのコストパフォーマンスはあるのか？市側の説明不足。	
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	資料、説明、データ不足。	
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)	多額な補助事業にも関わらず、頂いた資料、ヒアリングの説明だけでは十分判断するに足る確証を持ってない。資料不足、説明不足を委員が感じた。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)			

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	この再開発事業が、100年に一度の未曾有の恐慌時にあって、果たして本当に大丈夫なのかという市民の疑問に額の多さを含めてヒアリングでは、十分に答えていない。他市(磐田、浜松)の同様の事業も含めて現場に実際に出向き検証する必要がある。資料、ヒアリングだけでは早急に結論を出すべきではないのではないか？ 何せ補助金が他事業に比し突出しており、ステイクホルダーも多く大変影響力のある事業の為、もう少し時間をかけ行革審として市民も混じってじっくり議論すべきと考える。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する)

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月20日)

事業番号	163	補助金(事業)名称	乳幼児保育事業費補助金	記入者	第2WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	少子高齢化の現状を鑑み、少子化にストップをかける意味での補助金の目的は高い。	
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	民間だけでは、採算が合わないため、市の関与は必要。	
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	現状では妥当である。	
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)		人口減少、少子高齢化の現状、補助金の存在は必要である。		
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	補助対象者は妥当であり、年々、定員増を図っている。	
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	無認可保育園にも助成している。	
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない	概ね適切。	
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括(評価すべき点・問題点など)		年々、定員増を図り、対象者を広げている。無認可保育事業者にも補助をしている。とにかく少子化を止めるには、安心して子育て出来る環境を創ることが重要である。市の人口を増やすことが大事である。		

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	年々の定員増など進捗状況は順調である。
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input checked="" type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	・無認可保育事業者へのバックアップも十分 ・保育ママ制度
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)			

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	補助金の成果有り。運用は適切で待機者に対し無認可保育施設への補助及び低額な保育ママ制度への取り組みなどの手を打っている。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	特になし。上記の様に次の手を打ってある。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	事業の趣旨からいっても、少子化の時代背景、諸々の要素から補助金の継続は必要。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) ・無認可保育事業者への補助、保育ママ制度等の改善を次年度から実施する予定。 ・認可保育所を基本として充実させ、且つ待機児童数がまだまだ多い現状から、無認可保育所の補助もやむを得ない。 ・今後の課題として、公立・私立の給与の格差検討、設備などの効率化に対して一層の努力を求め、補助金の減額を図らなければならない。

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月27日)

事業番号	81	補助金(事業)名称	中山間地域等直接支払事業交付金	記入者	第3WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的は納得できる内容か</li> <li>・社会的に重要な課題に關係しているか</li> <li>・目的に緊急性はあるか</li> <li>・この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>・国や県が対応すべきことではないか</li> <li>・市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>・補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・掛川市まちづくり「豊かな自然を身近に感じる生活」は市民の満足度も高い。荒廃地の防止にも寄与しており、補助金の必要性、市の関与、手法も妥当と判断する。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>・補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>・他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>・補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない		
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>・他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない		
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない		
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>・事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・集落協定21集落、参加人数290人は、当該集落協定が属する地区人口4,940人に対し、6%弱。菊川市では、1集落のみ。主に高齢者が対象となっており後継者がいない人が多い状況下、制度自体を見直すべき時期にきていると判断する。 ・契約した場合、5年間継続が条件とされている点も加入上のネックとなっている。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない	・事業への参加率が低い中で地域全体として補助金の目的とする「農耕地を守り多面的機能の低下による国土の荒廃を防ぐ」がどの程度達成されているのか。
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・事業への参加者が少なく全体的な効果がわかりにくい。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	・目的達成の為に何らかの補助は不可欠。 ・成果も上がっているとみられるものの地区全体の環境における影響度はどうなのか不透明。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	・対象者、事業内容も含め、目的との関連で見直し、検討すべき問題点多い。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	・来年度より第3期対策(23年度～27年度 5年間)がスタートする。新しい規定が設けられる予定とのことであるのでとりあえずそれを待つ。いずれにしても当面は補助金は継続すべきと判断。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	・中山間地域、高齢者が主、後継者がいない人多い、協定参加人数少ないなどの状況を勘案するに、現制度の先行き見直しは厳しく、抜本的な見直しが必要と判断する。ただし、当面は事業費につき現状程度維持するスタンスでのぞみたい。
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) ・補助金の目的は重要であり、どう方法で対応していけばよいか。若い人達が目的達成の為に組織を作り(土地は借地として)農業を営営、それを国、県、市がバックアップする(環境、農道の整備、補助金交付)方法も一案。

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月27日)

事業番号	114	補助金(事業)名称	小笠掛川勤労者福祉サービスセンター運営費補助金	記入者	第3WG
1. 主要観点別の検討項目					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 重要性は高い <input checked="" type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・中小企業労働者の福祉増進に貢献している。ただし、事業所の加入率の低い点、一考の余地あり。(PR不足か?) ・なお、会員増強、事業費や会費の工夫によっては、センターの自立も不可能ではないと判断される。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・現行事業内容は、概ね妥当。 ・ただし、社会情勢の変化、中小企業労働者のニーズの変化も激しいと考えられるので絶えず見直しの必要あり。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input checked="" type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・会員数5300余、一方利用者数はそれを大きく下回っている。利用者の偏りがあるのではないか。利用内容も含め分析、調査、検討の余地あり。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	・現状下必要性は高い。 ・補助金も概ね適切に運用されている。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	・利用者に偏りがあるとみられ互助会的要素が強い。又事業所の加入率も低く、補助金としての普遍性につき今一步の工夫、努力を要す。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	・中小企業労働者の福祉増進を図る為、今後も継続する。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	・国の補助金(約7百万円)が22年度で終了するが、これを市の補助金増額で補うべきではない。 ・方向としては、サービスセンターの自立を促していきたい。その為には管理経費の見直し削減努力、事業費の内容検討、会員の増強(現状PR不足の感あり)及び会費の値上げも検討の要あり。即ち補助金なしでの収支バランスの実現に段階的に(数年をかけて)注力していく方向が望ましい。市としては、それをフォロー支援していく。
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) ・来年度で国庫補助金が終了する事で、菊川、御前崎の3市との協議が必要となる。行政側は、本サービスセンター役員とも今後のサービスセンターのあり方(公益法人改革、近隣のサービスセンターとの統合)について協議する必要ありとしている。

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月27日)

事業番号	117	補助金(事業)名称	商工業事業活動費補助金	記入者	第3WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に關係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は妥当。成果につながっている。</li> </ul>			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な対応ふりて市内商工業の活性化、一般市民の福祉増進に寄与しているとみられる。</li> <li>現在の厳しい状況下、中小企業等へのアドバイス、教育、指導なども積極対応を望む。</li> </ul>			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない	・成果を計る指標があいまいである。この為費用対効果が計りにくい。
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input checked="" type="checkbox"/> 判断できない	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・「交流型産業創造会議」等新規事業への取り組みは評価できる。 ・全体的には、事業内容にマンネリ化を感じる。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	・補助金の必要性は高い。 ・概ね適切な運用で特に社会一般の福祉増進寄与していると判断する。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	・補助金の効果が具体的に見えにくい。数値目標など工夫、改善が望まれる。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	・商工業の発展、福祉の増進を目的としての補助金の必要性は高く、今後も継続していくべし。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	・事業費について、内容がマンネリ化の傾向がみられる中では、補助金は現状程度が上限。ただし、ソフト面で一層の知恵、工夫をこらし新しい事業に挑戦するよう時には弾力的に対応することが望まれる。それだけこの事業が地域にとって重要かつ多面的な効果が期待できるからである。
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) ・3団体の統合が大きな課題。先ずは大東と大須賀の合併。その後掛川市との統合。 ・掛川商工会議所の事業所加入割合が46%と低位(大東、大須賀は70%)、「小規模程、顔が見え高くなる傾向」との説明を受けたが、調査、分析の上、対策を検討すべし。(統合による加入者減少回避の要)

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月27日)

事業番号	127	補助金(事業)名称	掛川観光協会補助金	記入者	第3WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的は納得できる内容か</li> <li>・社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>・目的に緊急性はあるか</li> <li>・この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>・国や県が対応すべきことではないか</li> <li>・市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>・補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・観光事業の活性化は極めて重要なテーマ。補助金の必要性は高い。目的、市の関与、手法妥当性あり。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>・補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>・他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>・補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>・他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>・事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・補助対象者は妥当。関与する方々の努力も窺われるが、事業内容に新規性、メリハリも必要と判断される。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input checked="" type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・具体例として、掛川城及びパークイングの利用数値低下。今年、竹の丸、報徳社も整備されたところであり、一層のPR、取組の改善、強化を期待。計画されている交流型産業創造、農業体験、企業観光など時流に合致有効と判断。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	・補助金の支給必要性は高いと判断されるが、事業内容については、選択と集中の精神で一層の効果あらしめるものを構築したい。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	・観光資源は豊富だけにPR手法を含めソフト面の開発に注力したい。現補助金は、事業、成果に硬直化が感じられる。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	・市として不可欠の事業。補助金の必要性高く、継続を要する。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	・観光事業の将来性は高く、強化したい分野であるが、市の財政状態及び協会のややマンネリ化した事業内容動向、事業費は現状維持が妥当と判断。ただし、商工業事業活動資金同様、知恵と工夫をこらしたソフト面での新施策が出た場合には弾力的な対応が望まれる。(補助金増額も可)
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input checked="" type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) ・掛川市は歴史、文化、産業など観光資源豊富、加えて交通の利便性も良好。更には静岡空港開港と誘客条件は整っている。生涯学習、報徳思想も全国から注目されている。これらを有効に活用するソフト面の充実強化が不可欠。

補助金見直し・検討作業表

(作成日:21年12月27日)

事業番号	136	補助金(事業)名称	市町自主運行バス事業補助金	記入者	第3WG
<b>1. 主要観点別の検討項目</b>					
区分	評価の観点	検討のポイント	判断(該当する「□」を塗りつぶす)	コメント(特筆すべき点があれば)	
A 補助金の存在意義	A-1 目的の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的は納得できる内容か</li> <li>社会的に重要な課題に関係しているか</li> <li>目的に緊急性はあるか</li> <li>この補助金が無いとどのようなデメリットがあるか</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 重要性は高い <input type="checkbox"/> 重要性は概ね高い <input type="checkbox"/> 重要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-2 市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の主体だけでは解決できない課題か</li> <li>国や県が対応すべきことではないか</li> <li>市の担当部門は適切か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が関与することは不可欠 <input type="checkbox"/> 市が関与することは望ましい(他の主体の関与も可能) <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	A-3 手法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金という手法を採用することは妥当か</li> <li>補助金以外の手段は可能か</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金の採用は不可欠 <input type="checkbox"/> 補助金の採用は望ましい(補助金以外の手段も可能) <input type="checkbox"/> 補助金を採用する必要性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・地域住民の生活交通の確保、福祉の向上の為、自主運行バスは必要。補助金も不可欠。			
B 補助金の制度設計	B-1 補助対象者の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の主体を対象とすることは妥当か</li> <li>補助すべき適切な対象者が選ばれているか</li> <li>他に補助すべき対象者は存在しないか</li> <li>補助対象者の活動は他にメリットをもたらすか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象者は概ね妥当 <input type="checkbox"/> 補助対象者は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-2 補助対象活動の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に照らして適切な活動が補助対象となっているか</li> <li>他に補助すべき類似の活動はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象活動は概ね適切 <input type="checkbox"/> 補助対象活動は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-3 制度設計の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の支給条件や支給方法は適切か</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 制度設計は適切 <input checked="" type="checkbox"/> 制度設計は概ね適切 <input type="checkbox"/> 制度設計は適切ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	B-4 事業費の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費の算出根拠は妥当か</li> <li>事業費に削減の余地はないか</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事業費は妥当 <input type="checkbox"/> 事業費は概ね妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費は妥当ではない <input type="checkbox"/> 判断できない		
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・10路線の1便当たり利用者数は平均2.4人~17.1人と大きな差。路線によって大きなロスを生じているものあり。全体的に制度自体は容認しうるものの画一的でなく、路線によっては別な方策を検討すべし。			

区分	評価の観点	検討のポイント	判断	コメント(特筆すべき点があれば)
C 補助金の運用	C-1 事業の進捗	・事業は順調に実施されているか ・事業の進捗を妨げる問題はないか	<input type="checkbox"/> 事業の進捗は順調 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進捗は概ね順調 <input type="checkbox"/> 事業の進捗は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-2 事業の有効性	・目的に見合った成果が実現しているか ・費用対効果は適切か ・今後も成果は見込めるか	<input type="checkbox"/> 事業の有効性は高い <input checked="" type="checkbox"/> 事業の有効性は概ね高い <input type="checkbox"/> 事業の有効性は高くない <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-3 補助対象者への措置	・補助対象者の補助金利用状況は把握されているか ・市は補助対象者に対して適切な監督や指導を行っているか	<input type="checkbox"/> 適切な措置が取られている <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切な措置が取られている <input type="checkbox"/> 補助対象者への措置は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	C-4 事業の改善努力	・担当者は事業の課題・問題点を把握しているか ・事業の改善に向けた取り組みがなされてきたか	<input type="checkbox"/> 改善努力が十分に行われている <input type="checkbox"/> 改善努力がある程度行われている <input checked="" type="checkbox"/> 改善努力は不十分 <input type="checkbox"/> 判断できない	
	この項目の総括 (評価すべき点・問題点など)	・事業の進捗、有効性は概ね高いと判断されるが、補助金額は漸増傾向、改善余地は大きい。		

## 2. 総合評価

区分	評価の観点	検討のポイント	評価結果
現状の総括	補助金の意義・成果	・補助金を支給する必要性は高いか ・補助金は適切に運用され、成果を上げているか	・広域な掛川市にとって生活交通の確保、福祉向上の為に補助金は不可欠。一応の成果は上げていると判断。
	補助金の問題点・解決すべき課題	・補助金の抱える問題点は何か ・解決すべき課題は何か	・補助金額は、漸増しており、市の財政にとっても大きな負担となっている。この為、この削減が喫緊の重要課題。
区分	評価の観点	方向性の評価(該当する「口」を塗りつぶす)	理由・補足説明
今後の方向性	必要性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金を今後も継続する <input type="checkbox"/> 期限を決めて補助金を継続する <input type="checkbox"/> 補助金を一時休止する <input type="checkbox"/> 補助金を廃止する <input type="checkbox"/> 判断できない	・補助金自体の必要性は高く今後も継続する。
	事業費の評価	<input type="checkbox"/> 事業費を大幅に拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに拡大する <input type="checkbox"/> 事業費を現状程度で維持する <input type="checkbox"/> 事業費を僅かに縮小する <input checked="" type="checkbox"/> 事業費を大幅に縮小する <input type="checkbox"/> 判断できない	・多額の事業費の内容を見れば、バス事業者に対する赤字補填であり、要因として1便当たりの利用者が少ないことにある。 ・かなりのムダが生じていると判断され、やり方次第で事業費の大幅削減が実現できるのではないかと期待。「公共交通ありかた委員会」にも期待。
	改善等の必要性 ※特に補助金の有効性・効率性を高めるために、どのような対応が必要であるかを検討して下さい。	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要あり <input type="checkbox"/> 改善等の必要なし <input type="checkbox"/> 判断できない	(改善等の必要がある場合には、できるだけ具体的に記述する) ・原点に戻って路線ごとの実情を調査分析し、路線の組み替え、妥当な料金、妥当な便数、加えてデマンド交通、乗り合いタクシーなど、現行バス以外の交通手段も考慮し、地域に合った市民交通の構築を図りたい。前提として、住民の生活交通の確保、福祉の向上は念頭におく必要がある。